

現地系外食・小売チェーン等への進出

- 輸出額の更なる増加に向けては、オールジャパンで、輸出先国・地域の市場調査、販路開拓等の取組を進めることにより、日系だけでなく現地系スーパー・レストランチェーンなど新たな市場を開拓する必要。
- 香港、シンガポール、アメリカなど各国・地域において、現地系外食・小売チェーン等に進出する事例も出ている。

〈進出事例の一部〉

コメ パックご飯 米菓

●韓国

- ・ 大手スーパー、ドラッグストア、ディスカウントストア

●香港

- ・ 大手寿司チェーン(業務用)
- ・ おにぎりチェーン(業務用)

- ・ 高級グルメ系スーパーチェーン

●アメリカ

- ・ 大手量販店チェーン (PB(※1)用テスト販売)
- ・ アッパー向けスーパーチェーン
- ・ 大手小売チェーン(OEM(※2))

●マレーシア

- ・ アッパー向けスーパー

●シンガポール

- ・ 日本食/台湾レストラン(業務用)
- ・ 大手ネットスーパー(小売用)

●台湾

- ・ 大手スーパーチェーン(小売用)
- ・ 大手ドラッグストアチェーン

●オーストラリア

- ・ 大手量販店チェーン(小売用)

日本産米

- ・ シンガポールで22店舗展開している台湾料理チェーンに対して、**台湾料理(チャーハン等)に合うコメの提案や炊き方提案、使用後のきめ細やかなフォローアップを実施。**
- ・ チャーハンに合うコメを提案したことで、**メニューの品質が向上。**また、多量のコメを消費する同チェーンに対して、試用期間中に欠かさずにコメを供給をし続けられたことも評価され、**日本産米の継続使用が実現。**



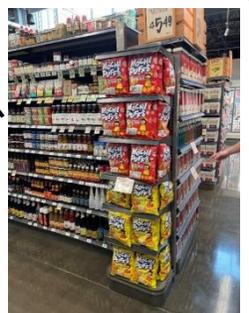
パックご飯

- ・ アメリカ全土に展開する**現地系量販店と他業態で取引関係があったこと**をきっかけに、エリアを限定したPB商品としてテスト販売を実施する予定。定番商品化に向けて商談中。
- ・ 台湾においても、**同米系量販店のECサイトを足掛かりに、実店舗への進出を計画**中。



米菓

- ・ 消費者による日本製菓子の**SNS投稿がバイヤーの目にとまり、JETRO経由で紹介を受けたこと**で、アメリカのテキサス州に展開する**現地系小売店のPB商品としてテスト販売**を実施。2023年10月から本格的に現地での販売を開始。
- ・ 日系小売店では日本風のパッケージにラベルを貼って対応することを求められるが、**英語のパッケージで子ども受けするポップなデザインにして、現地系消費者に訴求。**



※1:“Private Brand”の略称。小売業者が商品を企画して、メーカーが生産した商品を全量買取して自社ブランドとして販売するビジネスモデル。

※2:“Original Equipment Manufacture”の略称。「相手先ブランド供給」とも呼ばれる。委託者のブランドにより製品を生産するもの。

各国・地域で広がりを見せる「おにぎり」

- 日本産米で作ったおにぎりは、冷めてもやわらかさと粘りがあり、コメそのものの美味しさを伝えることが可能。
- おにぎりは、テイクアウトが可能で手軽に食べられ、外食に比べコストパフォーマンスも良いことから、近年、海外でも人気となっている。

(2023年12月時点)

(株) イワイ (アメリカ・フランス)

- アメリカ (NY、NJ) とフランス (パリ) におむすび専門店「おむすび権米衛」を展開。
- 玄米形態で輸出し現地店舗で精米することで、精米したてのコメを使ったおむすびを消費者へ提供。
- 国内外店舗を問わず、店舗で使用される全てのコメを生産者と直接契約。
- コロナ禍によるテイクアウト需要で売上げが増加。



(店舗数：4店舗)

百農社国際有限公司 (香港)

- 香港のオフィス、ショッピングモール、地下鉄駅構内等において、おむすび専門店「華御結」「OMUSUBI」を展開。
- コメは全て日本産を使用。品質の均一化・多店舗展開に対応するため、おむすびは全て自社工場で製造。
- 生産者とは毎月1回ミーティングを行い、ブランドコンセプトを共有。



(店舗数：141店舗)

(株) パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス (シンガポール・香港・台湾・マレーシア・アメリカ (ハワイ))

- DON DON DONKI店内で、握りたてのおにぎりとお米を精米したてのコメを提供する日本産米専門店「富田精米 (シンガポール・マレーシア)」「安田 (やすだ) 精米 (香港・台湾・アメリカ (ハワイ))」を展開。
- おにぎりを食べてもらう飲食業と日本産米を買ってもらう物販業が併存する従来にないハイブリッド型。
- 玄米輸出、現地精米をすることで、鮮度の高い日本産米を提供。



(店舗数：14店舗)

KNT-CTホールディングス (株) (アメリカ)

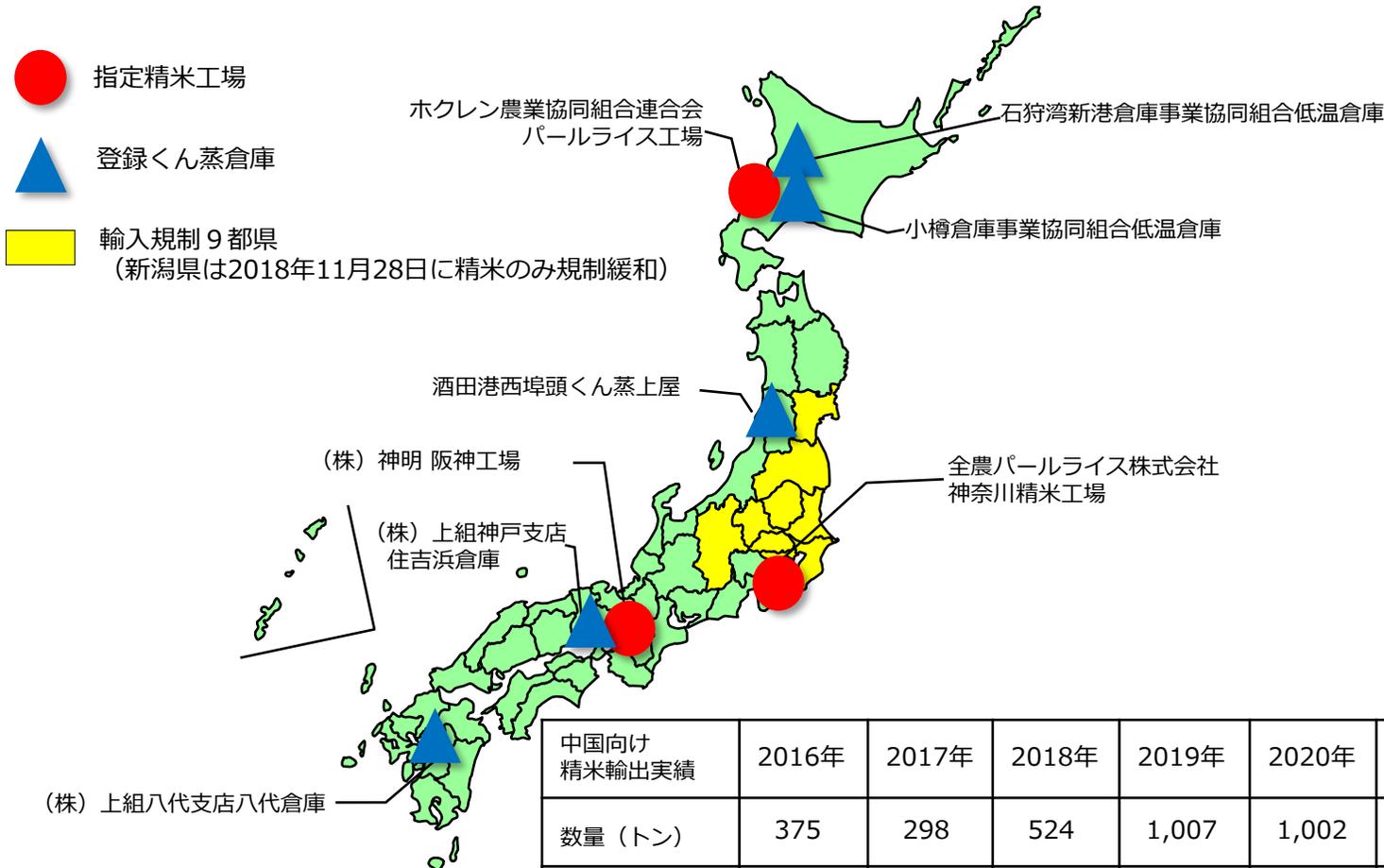
- 旅行会社として日本の食材と日本産米の魅力海外へ向け発信し、地域創生を目指す「コメイノベーション事業」を開始。
- フードトラックでの、おにぎりのテスト販売を経て、期間限定店舗「ONIGIRI SUN」をロサンゼルスにオープン。
- 玄米輸出、現地精米した日本産米で、握りたてのおにぎりを提供。具材には鮭・明太子・昆布等の定番に加え、大豆ミートそぼろ等、ヴィーガンにも対応。飲料にも日本発の玄米デカフェを提供。



(店舗数：1店舗)

(参考) 中国向けコメ輸出の状況

- 中国向けに精米を輸出するためには、指定精米工場における精米及び登録くん蒸倉庫におけるくん蒸が必要。
- 現在、指定精米工場は3か所、登録くん蒸倉庫は5か所。(2018年5月の日中首脳会談後、精米工場2施設及びくん蒸倉庫5施設が追加。)
- また、福島第一原子力発電所事故により、9都県産米の輸出が停止。(2018年11月に、新潟県産の精米の規制のみ緩和。)



中国向け 精米輸出実績	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年 (1月)
数量 (トン)	375	298	524	1,007	1,002	575	764	546	0
金額 (百万円)	163	97	211	363	321	219	262	175	0